

都道府県別賞一等

足のつけ根から見える未来

愛知県 名古屋市立守山中学校 二学年

水野 結雅

「お父さん、ソケイのソって何って書くんだっけ？」

これは、今まで僕と父との間で、何回も繰り返されてきた質問です。

『今まで大きな病気にかかったことがありませんか？』の欄にいつも書く「鼠経ヘルニア」の「鼠経」の字が僕には覚えきれないのです。漢字がわからないだけでなく、どんな病気かもはっきりわかりませんでした。二歳の時に手術をしたはずの「ソケイ」を見ても、その傷跡を探すことはできませんでした。でも、父から

「二歩間違えたら腸が破裂して危ないところだったんだぞ。」

ということ聞いたとたんに、いつも考えてもいなかった「死」が身近になってきました。

こういうことを聞くのは何か気が引けることでしたが、どうしても気になって、父に家族や親戚がかかった病気を思い切って聞いてみました。

少し驚いた父でしたが、それでも一緒に調べてくれました。

「鼠経ヘルニアに悩んだ人は僕だけではないんだね。」

と不思議にほっとしましたが、一方で胃や腸の不調やガンを患った人が多いのが気になりました。そういえば、父も一昨年大腸から血が出たことで大変な目に遭っていましたし、祖父は電話で胃ガンの手術をしたことをよく話していたのを思い出しました。

「日本は病院が安くていいなあ。」

タイで暮らしている祖父が言うには、タイではちよつとした風邪や腹痛でも医療費が一万円以上するそうです。調べると自分が病院にいつもかかれるのは「国民皆保険制度」というものがあるからだということがわかりました。でも父によると「手術となると安くはいかないし、最先端の治療をしようと思っただけ、もっとお金がかかる」そうです。

こっそりと厚生労働省の死因のホームページをみると、ガンが死因の一番で、しかも父の年代がそれに一番当てはまっていたのです。『祖父と同じく父がガンだったらどうしよう。』そう思うと父がいつまでも元気であることが当たり前ではないと気づきました。そういえば、父はいつも「住宅ローンが……。」とぼやいていましたが、もし、父がいなくなったらそのローンはどうなるのでしょうか。また、高校や大学にかかるお金はどうなるのでしょうか。

第59回中学生作文コンクール

とても怖くなって、おそろおそろ父に聞くと、父は笑いながら、生命保険や、ガンのことを踏まえた保険をかけていることを話してくれました。父は明るいだけの未来を考えていただけではなかったようです。

私はいつも今しか見ていないと注意されます。提出物や予定表、もつと言えば将来の夢やそのために進む道など全く見ていませんでした。もつと言えば、夢の後ろに病気や事故・災害などの危険がいつも貼りついていることも気づいていませんでした。

父の注意はやはりうるさいです。でも、今回、病気や保険について父と勉強することで、未来を見る目が少しだけ広がったように思えました。

「鼠経ヘルニア」の「鼠経」を父に聞かなくても書ける日も近いかもしれません。